mangachain

Create New "**manga**" Economy

Version 1.0.0 July 3,2018

© 2018 mangachain team All rights reserved.

目次

1. mangachain 設立の背景

2. mangachain について

2.1 mangachain の特徴

2.2 ユーザーに報酬を与えることができる仕組み

2.3 mangachain 内におけるトークンの扱い

2.4 トークンの配布ロジック（作成中）

2.5 トークンの不正取得対策

2.6 mangachain におけるブロックチェーン技術

3. トークンの詳細と割当

4. 私たちが実現する世界

5. ロードマップとマーケティングストーリー

6. チームミッション・メンバー紹介

7. チームの運営方針

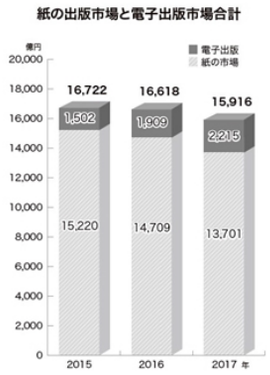
1.mangachain 設立の背景

新しいマンガ経済圏の創出

マンガは日本が世界に誇る、有力なコンテンツの一つです。
しかし、現在マンガ出版業界には多数の課題が存在します。

顕著な例が、" 海賊サイト " によるコンテンツの不正利用で以前より世界中には日本のマンガコンテンツを不正利用した海賊サイトが多数存在していましたが、2018 年頃より、" 漫画村 " というサービスの存在がニュース等で大きく報道され、結果として漫画村のユーザー数を増加させる要因となってしまいました。
漫画村の月間 PV 数は、最高で数億を超えるユーザーが閲覧していたとされ、想定被害総額は 3200 億円とも言われています。

海賊サイトを利用する読者が増えることで、マンガを購入する機会が減少してしまい、結果として出版市場は緩やかに縮小傾向に向かっています。



参考文献 : 公益社団法人全国出版協会

もちろん政府や出版社も対策をしていないわけではありません。海賊サイト対策として、サイトブロッキングを実行し、漫画村等の特定の海外サイトへのアクセスを遮断しました。

一時的にはサイトブロッキングにより、海賊サイトにアクセスするユーザーは減少するかもしれません。

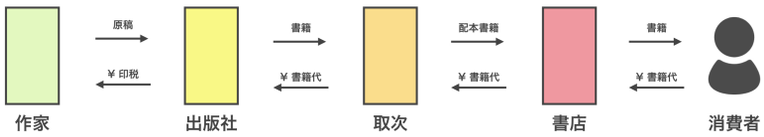
しかし、それは本質的な解決に繋がっているでしょうか。
海外にはまだまだ判明していない、海賊サイトが無数にあるとされています。
それら全てをブロッキングすることは、非常に難しく、ブロッキングができたとしても、次から次へと新しいサイトが誕生してしまっては、イタチごっことなってしまいます。

また、出版業界自身も、業界の統一団体がなく、ロビーイングも全くまとまらないという問題もあることから、海賊サイトへの対策に動けていないという課題もあります。

こうしているうちにも、新しい海賊サイトが次から次へと誕生してしまっているかもしれません。

また、マンガ出版業界に対する課題は、海賊サイトだけではありません。
マンガ出版業界のビジネスモデルそのものに、限界がきているのではないかと、私たちは感じています。

マンガ出版社は作家から原稿をもらい、書籍化し販売することで収益をあげます。
そして得た収益の中から、作家に対して印税をリターンするというビジネスモデルです。



作者への印税は 10%-20% がほとんどで、残りの 80%-90% は、出版社の収益や広告費、配送、流通コスト、印刷コストなどに充てられます。
しかし、出版社は売上の 80%-90% を取っているにも関わらず、本が売れずらくなっている厳しい現状から、そもそも売れる見込みのある有名人の本しか出さない傾向に傾きつつあります。

さらに、その有名人にブログで紹介してもらったり、SNS などで宣伝してもらったり、場合によっては買い取りを前提にするなど著者の販売力・宣伝力に頼りっきりになっている状況もあり、そもそも出版社に依頼すること自体が、作者にとってメリットでは無くなってきているのではないでしょうか。

一昔前なら出版社を通して書店で販売してもらわない限り本はなかなか売れませんでした。しかし、インターネットが発達した現代では、全く異なり、個人でインターネット上で直接本を販売することも可能です。

様々なテクノロジーが発達した現代では、マンガ家になりたいからと言って、必ずしも既存の出版社に持ち込み、そこでデビューする必要は無くなって来ているのです。

ではこれらの課題を解決するためにはどうすればよいでしょうか。

私たちが解決策として、可能性を大いに感じたのが、ブロックチェーン技術を活用した、トークンエコノミーを設計した Web サービスを創造することです。
ブロックチェーン技術を用いる一番のメリットは、非中央集権の世界を実現できる点にあると考えております。

サービス上でのルールや契約等は全てスマートコントラクト上に記述し、運営であってもそれを変更することは困難です。
また、人が介在することが少なくなるため、運営による中間搾取を減らし、読み手と描き手を直接結びつけやすくもなります。

海外では STEEM(https://steem.io) や、国内でも ALIS(https://alismedia.jp/ja/) といったトークンエコノミーを設計した Web サービスが、すでに登場しています。

STEEM に関しては、すでに $3.46 億 (2018/6/24 現在) の評価を得ており、中国の産業情報省 CCID 研究所が発表した、仮想通貨に対する格付けでも 2 位に入っています。カテゴリーは違えど、トークンエコノミーを活用したサービスのポテンシャルが高いことはすでに証明されています。

そこで私たちは、独自通貨 MCT トークンを発行し、トークンエコノミーによる独自の経済圏を作りだすことで、現状の課題を解決した、全く新しいマンガ経済圏の創出を実現するために、mangachain プロジェクトを発足致しました。

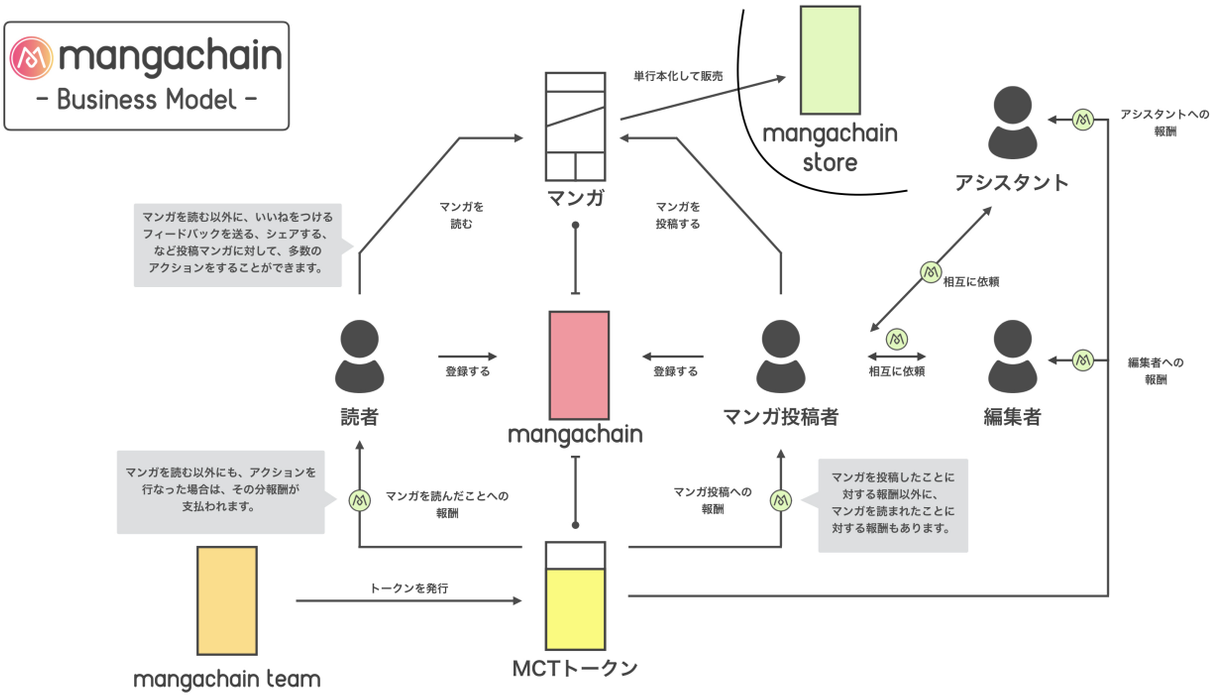
2.mangachain とは？

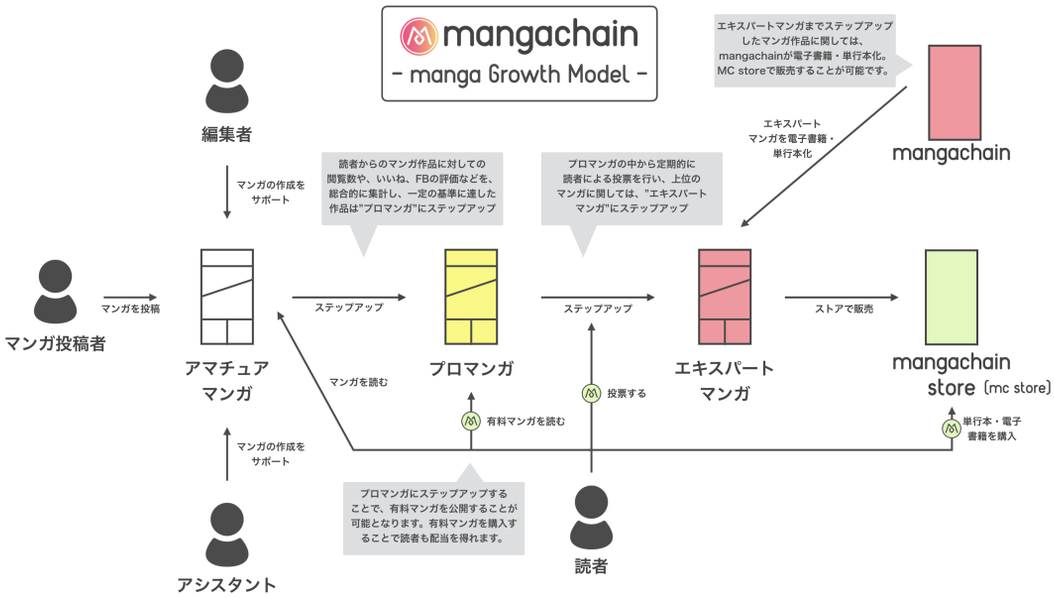
2.1 mangachain の特徴

mangachain とは、ブロックチェーン技術を用いて、独自のイーサリアムトークン (MCT) を発行し、そのトークンを基軸通貨とした、全く新しい、インディーズ特化型マンガプラットフォームです。

中間業者の介在を抑え、読者とマンガ家を直接繋げることを可能にする分散型マンガサービスです。

MCT トークン (Mangachain Token) という報酬をトリガーとすることで、従来のマンガプラットフォームとは異なり、読者が mangachain 上でマンガを読み続け、マンガ家への報酬を担保するとともに、良質なマンガコンテンツを生み出し続ける、オープンなマンガプラットフォームを目指します。





以下に "mangachain" の特徴を 5 つに分けて説明します。

①マンガを描く、読むと報酬を得ることができる

既存のマンガプラットフォームでは、新人マンガ家の描いた作品よりも、圧倒的にすでに知名度のあるマンガが読まれる傾向があります。
もちろんユーザーの目線に立ってみれば、すでに知っているマンガ、有名なマンガを読みたいというニーズは明確です。

しかし、それではまだまだ知名度のないマンガ家の作品が読まれる機会が増えることはありません。
そこで私たちは、mangachain の Phase1 では、

• 読者

" 無料でマンガを読め、読むことで報酬が得られる " さらに、" より早く良いマンガを見つけだすことで、報酬が増加する "

• マンガ家

" マンガ作品を投稿することで、報酬が得られる。また作品が読まれれば読まれるほど、報酬が増加する " 仕組みを導入いたします。

この仕組みによって、読者側もマンガを読むことで報酬を得ることができるため、新しいマンガであっても、一度はそのマンガを読んでみよう、というモチベーションを生み出すことができます。

また、より早く良いマンガを見つけ出すことで、報酬が増加するため、読者が競い合って良いマンガを発見する流れを、生み出すことも可能となります。

もちろんマンガ作品を投稿するマンガ家に対しても、報酬を付与するため、より多くのマンガ作品を mangachain 上に集めることが可能だと考えております。

②マンガ家への報酬の透明性を確保

既存のマンガサービスは、マンガ家への報酬の仕組みがとても分かりづらいです。

出版社であれば印税、原稿料以外のマンガの売上はどこに使用されたのでしょうか？
Web 上のマンガサービスでは、読者からの月額費用等の売上はどのようにしてマンガ家に分配されているのでしょうか？

私たちは、mangachain 上での読者からの売上は、そのままマンガ作品の作者に還元します。サービス運営を継続していくため、多少の手数料をいただく形にはなりますが、既存のサービスよりは大幅に少なく、運営の手数料費用や、読者への還元ボーナス等の内訳はブロックチェーン上に明記し、自由に閲覧ができるようにします。

③読者からのフィードバック機能

私たちは、マンガ作品のファンを増やすもっともシンプルな方法は、1 人でも多くの読者にマンガを読んでもらい、生の意見を貰うことだと考えています。
もちろん、一人一人の意見に従ってマンガの内容を変えてしまっては、作品自体がブレブレになり、良い作品にならない可能性もあります。
しかし、マンガを読んだ読者が何を感じ、どのような印象を抱いたかをマンガ家が知ることで、作品自体のクオリティを向上させることに繋がると考えています。
したがって、mangachain 上では、読者がマンガを読むだけではなく、作品に対してのフィードバックをしやすいプロダクト設計をすることで、マンガ作品の PDCA を回しやすくし、人気作への最短ルートを確立します。

④読者がマンガ作品を購入することで、配当を得ることができる

Phase2 では、マンガ家が有料のマンガを公開することができます。
しかし、プラットフォーム上で有料マンガを購入することができるだけでは、マンガ家にしかメリットがなく、
既存のマンガプラットフォームと同様になってしまいます。
そこで mangachain では有料でマンガ作品を公開し、それを購入したユーザーに対して、マンガ家が有料マンガ作品を売り上げて取得する報酬の中から一定の割合を、購入したユーザーたちに配当として、還元する機能を搭載いたします。

配当は、有料マンガ作品を購入したユーザー内で、そのマンガ作品をどれだけ購入したか、mangachain 内のウォレット上での、MCT トークンの保持数等のロジック (後述) を元に、分配をします。

そうすることで、読者も自分が好きなマンガ作品を購入して読み、マンガ家と一緒にそのマンガ作品を応援・拡散し、そのマンガ作品の売上を向上させることで、印税に値する配当(MCT) を受け取り続けることが可能です。

よって、有料マンガを公開しても読者とマンガ家、両方にメリットを与えることが可能となり、既存のマンガプラットフォームよりも、有料マンガ作品を購入されやすい仕組みを実現でき、読者と共創していきながらマンガを成長させることができます。

⑤海賊サイト等の不正コンテンツ利用対策

上記でも説明をしましたが、mangachain では phase1,2 共にマンガ家だけではなく、読者に対してもメリットがあるように、プラットフォームの構造を設計しています。

おそらく mangachain 上で、公開された作品が海賊サイト等に掲載され、不正コンテンツ利用をされることは防げないと思います。
しかし、どの phase においても読者側にもメリットを作ることによって、mangachain 上でそのマンガを読んだ方が、報酬を得ることができるため、得をする仕組みが出来上がっています。
よって、たとえ海賊サイトに掲載されたとしても、読者に mangachain 上に留まってもらうことが可能となり、mangachain にマンガを投稿することで、不正コンテンツ利用対策に繋がると考えております。

2.2 ユーザー報酬を与えることができる仕組み

MCT は発行しただけでは価値を持ちませんが、今後日本でライセンスを取得している仮想通貨取引所に上場し、MCT を取引するユーザーが現れることで MCT に価値が付きます *

また mangachain 上では、貨幣ではなく、MCT を基軸通貨として読者や、マンガ家がサービス上で支払いや、投げ銭等を行う際に、使用してもらうことで、MCT トークンの流動性が上がり、価値が向上します。その後もトークンの流動性を担保することによってある一定値で価格は安定すると考えています。

価値が安定することで、私たちが mangachain 内で MCT を配布すると、一定の価値を持ったトークンの配布が可能となるため、読者・マンガ家それぞれに、明確なモチベーション訴求を実現することが可能です。

全く新しい概念ではありますが、トークンエコノミーサービスの先駆けとも言える、STEEM は同様の仕組みを用いて $3.46 億 (2018/6/24 現在) の評価を得ており、国内でも ALIS が同様の仕組みを用いて、¥3.9 億 ((2018/6/24 現在) の評価を得ており、この仕組みの実現は可能であると考えています。

* = 仮想通貨取引所への上場をし、取引が行われない限り MCT に価値が付くことはありません。

2.3 mangachain 内におけるトークンの扱い
トークンの使い道

mangachain において、MCT を基軸通貨として用いることで流動性を確保し、トークンの価値向上を図ることは非常に重要です。そのため MCT の利用用途がとても重要となってきます。私たちは現状 MCT を以下の用途で、mangachain 上で使用することを想定しています。用途に関しましては継続的にチームで議論して増やしていきたいと考えています。

読者

- 有料プロマンガの閲覧
  プロマンガにステップアップした有料マンガを MCT を支払って読むことができます。
- mangachain store での電子書籍・単行本の購入
  電子書籍化・単行本化されたエキスパートマンガを mangachain store から MCT を用いて購入できます。
- エキスパートマンガへの投票
  マンガの最高ステータスであるエキスパートマンガに MCT を支払って投票することができます。
- マンガ家へのマンガ執筆依頼
  好きなマンガ家に MCT を支払って書いて欲しいマンガをリクエストすることができます。
- マンガ家への寄付
  好きなマンガ家を応援するために MCT で寄付をすることができます。

マンガ家

- アシスタント・編集者への報酬
  mangachain スカウト（仮）から編集者・アシスタントに依頼し、その報酬を MCT で支払うことができます。
- 育成プログラムへの参加料
  mangachain アクセラレータープログラム（仮）に MCT を支払って参加することできます。

報酬となるトークンの出所

mangachain ではサービス内でのアクションに応じて一定ロジック（2.4 作成中）に基づいて報酬が配布されます。その報酬は、mangachain 内のウォレットにある総 MCT を年率 50% で新規発行させることで配布されます。増加させた分からチームが一定の手数料を差し引いた後、マンガ家：読者 = 9：1 の割合で分配されます。

年率 50% で新規発行して大丈夫なのか

年率 50% で新規発行すると通常トークンの価値が下がってしまうと想定されます。しかし、年率 50% とはいえ、mangachain 内のウォレットにある総 MCT にかかるので総発行量に対しては 10%~20% 程度の発行になること、またそれに伴いユーザー数が増加し、mangachain 内でのトークンの利用価値がきちんと確立されていれば、トークンの価値はむしろ上昇すると考えています。

しかし、サービスの成長フェーズにおいては新規発行により大きくトークンの価値を下げてしまうことも懸念しています。そこでベータ版などの検証段階では報酬を少なくして検証したり、マーケティングとして確保しているトークンから報酬を配ることで新規発行を抑えることも検討しています。

また、その他にも補助的にではございますが、広告収入によるトークン買戻しや mangachain 内の手数料収益からの報酬の分配も検討しています。

報酬の出所に関してはとても重要な部分であると同時にサービスのフェーズによって最適なソリューションは変わってくると感じているため、有効な案を考えつつも柔軟に動いていきたいと考えています。

2.4 トークンの配布ロジック（作成中）

現在作成中です。完了次第アップロードいたします。

2.5 トークンの不正取得対策

ここまででも述べてきた通り、mangachain はマンガを読んだり、いいねする事でトークンを取得することができるサービスです。このように報酬が発生するサービスである限り、トークンを不正に得ようとする動きは絶対に発生すると考えています。
ここでは考えられる 3 つの不正行為とその対策を見ていきます。

私たちは以下の 3 つを代表的な不正行為と考えています。

1. 読みもせずに素早くマンガを閲覧・いいね
2. 複数アカウントによる操作や自演行為
3. Bot による閲覧・いいね

また、それに対する策を以下のように考えています。

1. 滞在時間などを加味した指標を使用・いいね数の制限
2. 電話番号認証の導入
3. Google reCAPTCHA(https://www.google.com/recaptcha) の導入

mangachain において、マンガを楽しんでサービスへの貢献をする人に対してトークンが報酬として渡されるのが健全ですが、何も対策をしないと読みもせずにひたすら、閲覧したりいいねするだけの人が多くのトークンを得ることになってしまいます。
そこで正しくサービスを楽しんでくれている人が多くのトークンを得られるような仕組みとして、滞在時間などを加味した指標をすることや、1 日にすることができるいいね数を制限することを検討しています。
滞在時間などを加味することによってマンガをしっかり読んでいる人が優遇され、いいね数を制限することで質の高い、いいねの方が有利になると考えています。

2 点目は複数アカウントによる操作や自演行為についてです。これを完全には防ぐことはできませんが、電話番号認証を導入することで多くは防げると考えています。もしこれでも効果がなさそうだった場合にはその都度検討していきます。

3 点目は Bot によるマンガ閲覧やいいねに関してです。これは行動などから判断してトークンを付与しないことや、BAN するということも考えていますが、多くは Google reCAPTCHA を使用することで防げると考えています。
この点においても Google reCAPTCHA を使用しても、怪しいアクセスが続いていた場合その都度検討していきます。

これらの行動は mangachain の質を低くするばかりではなく、トークン配布の不公平さからユーザーが離れる原因ともなってしまうと考えてます。また、日々技術も進歩していくと思うのでその時により適した方法を用いて取り組んでいきたいと考えています。

2.6 mangachain におけるブロックチェーン技術

Mangachain Token(MCT) は ERC223 規格に準拠した Ethereum トークンです。
現在、Ethereum 上で発行されているトークンの多くは ERC20 という規格に準拠していますが、それには大きな欠点がありました。それはコントラクトアドレスに誤って送金すると、そのトークンが消滅してしまうという問題です。これまでに誤送金によって消滅した額は 3.5 億円以上と言われてます。
ERC223 ではこの問題を解決し、誤ってコントラクトアドレスに送金した場合は元のアドレスにトークンが送り返される仕組みになっているため、ERC20 よりも安心・安全に送金することができます。
また、MCT にはトークンの発行量を減らす Burn 機能や運営が保有するトークンを一定期間送金できないようにするロックアップ機能も実装しており、MCT の価値を高めることができます。また、皆様に配布するトークンの新規発行を行うための Mint 機能も実装しております。

次に MCT を管理するブロックチェーン技術について説明します。ブロックチェーンには「パブリックチェーン」と「プライベートチェーン」という 2 種類があります。
パブリックチェーンでは不特定多数のマイナーによってトランザクションの検証が行われ、合意形成が行われているため、特定の個人による操作や改ざんが非常に困難であり、取引記録の検証と正当性が保証されているという大きなメリットがあります。
一方で、不特定多数のマイナーがトランザクション検証を行なっているため、合意形成に時間がかかってしまい、大量のトランザクションを処理するができないという大きなデメリットがあります。
また、近年ブロックチェーン技術を用いた分散型アプリケーション（DApps: Decentralized Apps）が開発されています。多くの DApps を利用する際は、MetaMask（メタマスク）という Ethereum ウォレットを使用する必要があります。

しかし、仮想通貨を知らない人や、まだ仮想通貨に慣れない初心者の方がメタマスクを使いこなすのはハードルが高く、サービスを使える人が限定されてしまうと考えています。

そこで、私たちのサービス上では MCT トークンをパブリックチェーン上ではなく、プライベートチェーン上で管理します。プライベートチェーンを用いることで、パブリックチェーンの問題を解消し、以下のような特徴を持つサービスを実現します。

1. 迅速な取引承認
   プライベートチェーンでは特定の管理者がブロックチェーンを運営しているため、
   トランザクションの検証と合意形成を非常に早く行うことができます。

2. 取引手数料が不要
   マイナーが限られるため、取引承認のインセンティブ
   （ビットコインなどにおけるマイニング報酬）が不要となります。

3. 普通の Web サービス同様に簡単に利用可能
   メタマスクを使用しないため、仮想通貨初心者の方でも
   簡単にサービスをご利用いただけます。

一方でプライベートチェーンには、管理者が限定されるため分散化の利点が失われデータの改ざんや不正操作の危険性が高まるというデメリットがあります。
この問題に対しては、プライベートチェーン上のトランザクションの検証を行うノードを増やし、管理者を分散させることで解決していこうと考えています。
また、将来的に先述したパブリックチェーンの問題を解決した技術が開発されたとき、その技術を導入することを考えております。

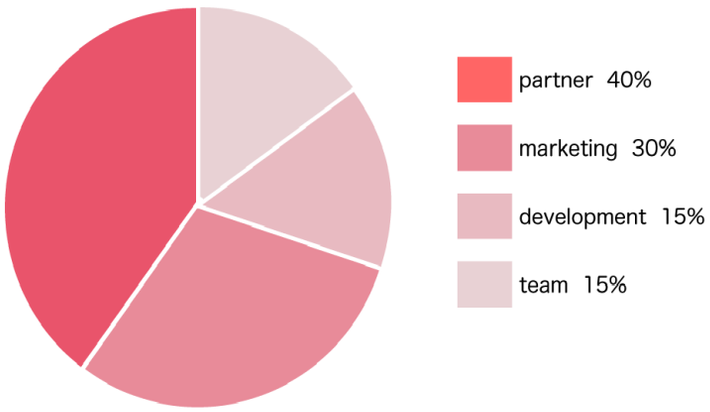
3. トークンの詳細と割当

3.1 トークン詳細

トークン名：Mangachain Token
シンボル：MCT
総発行枚数：500 億枚
トークンタイプ：ERC223*

*ERC20 の次世代規格に当たり、「間違ったアドレスへ送金しても、トークンが凍結されず返金処理がされる」など、投資家を保護できる機能を中心に、ERC20 より様々なアップデートがされた規格になります。

3.2 トークン割当



- partner
  アライアンスをメインに、mangachain と一緒にプロジェクトを進めていただく企業・団体・個人に対しての、インセンティブとして使用いたします。

- marketing
  airdrop や、ロゴ・キャラコンペ、サービスグロースに向けたマーケティング活動全般で使用をいたします。
  また、サービスのβ版での報酬としても使用を検討しております。

- development
  プロダクトを開発する上での、人件費、サーバー・ツール費用等に使用いたします。

- team
  チームメンバーがプラットフォームを発展させる上で、健全なインセンティブを保つために、チームで保有いたします。

尚、team・development 保有分は 2018/7/1 より、1 年間のロックアップをかけ、運営による売却・譲渡が行えないようにいたします。

mangachain では、日本の法律に遵守するため、ライセンスを取得していない状態で日本国内向けの、ICO(Initial coin offering)や IEO(Initial exchange offering)といったトークンの販売行為を一切行いません。

4. 私たちが実現する世界

私たちは " 新しいマンガの経済圏を創出する " ことをミッションにプロジェクトを始動いたしました。
本章では、ミッションを元にどのような未来を描き、何を実現したいかを記載します。

4.1 新しいマンガの経済圏を創出する

現代は誰しもが、スマートフォンを持ち、いつどこでもインターネットに接続することが可能です。また、SNS が発展し、個人でもさまざまな情報を発信することができる時代です。さらには、シェアリングエコノミーが台頭し、個人でもサービスを磨くことで、法人と同等、むしろそれ以上の サービスを提供することが可能にもなりました。
ほんの数年で、インターネット業界を中心に目まぐるしく時代が変化していく中で、マンガ出版業界はその変化に 対応できていないのではないかと私たちは考えています。
もちろん、既存のマンガ出版業界のビジネスモデルもニーズはまだまだあると考えていますし、数々の有名マンガ作品を生み出してきた功績は、私たちでは到底計り知れないものだと思います。

しかし、時代が変わってきたことで、" マンガ作品 " が誕生する過程は変化しているのではないかと思います。SNS で自分の描いたイラストがバズったことをきっかけに、出版社からデビューする人もいれば、自分でマンガを作って、kindle で販売する人、クラウドファンディングで資金を集めて、自分の作品を作る人など、ありとあらゆる手段が生み出されています。それでも、現在実施されている手段では個人の能力次第な部分があり、再現性は高くはありません。

実力があっても発信力がなければ、マンガを売ることも、作品が人気になることだってありません。

だからこそ、私たちは mangachain を通じて、" 新しいマンガの経済圏 " を作りたいと思いました。新しい経済圏は、誰もが簡単かつ、公平に使うことができ、マンガを成長させることができる場所です。そして、この経済圏は外部からの干渉を受けることはなく、ルールも自分たちで決めることができます。

この経済圏を実現させるためには、マンガ家だけの力ではなく、読者の力も必要です。mangachain では両者にメリットを与えることで、マンガが成長していくために、マンガ家と読者が協力できるようなシステムを構想しています。

それは決して、従来の方法、法則では当てはまりません。今まで存在しなかったことを実現するには、相当な労力が必要だと思っていますし、簡単に実現がしないことは 百も承知です。しかし、私たちはブロックチェーンの未来を心の底から信じています。

そして、マンガ家、読者をはじめ、コミュニティメンバーや関わってくださる方と一緒に、" 新しいマンガ経済圏の創出 " に向けて邁進していきたいと思います。

5. ロードマップと マーケティングストーリー

Phase1

2018

- 2018.4〜7　サービスページ & コミュニティオープン
- 2018.4〜7　ホワイトペーパー ver 1.0 の公開
- 2018.4〜7　Airdrop の開始 (vol.1-3)
- 2018.7〜9　Airdrop の開始 (vol.4-5)
- 2018.7〜9　法人登記手続き開始
- 2018.10〜12　法人登記完了
- 2018.10〜12　サービスβ版事前登録の開始
- 2018.10〜12　サービスβ版 (MVP) の公開

Phase2

2019

- 2019〜　サービス正式版リリース
- 2019〜　mangachain 上でプロマンガ家の認定を開始
- 2019〜　グッズ・電子書籍を販売できる mangachain store をリリース
- 2019〜　サービスの多言語化対応を開始

2020

- 2020〜　投稿作品の単行本化を開始
- 2020〜　mangachain 上でアシスタントや編集者を探せる mangachain scout(仮) をスタート

Phase1

Phase1 では、まずは mangachain のβ版をローンチする体制を整えるために、トークンのデプロイ、コミュニティ醸成と資金調達方法の決定・実施に注力をいたします。コミュニティに関しては、discord、twitter を用いたオンラインコミュニティと、オフラインでのオフ会、Meetup などのオフラインイベントを通して、熱量の高いコミュニティを目指します。並行して、マンガ家へのヒアリングなども実行していきながら、β版のサービス開発を進めていきます。

サービスとしてのクオリティを担保するためにも、クリティカルな不具合を対策し、円滑にサービスを正式リリースできる準備を完了いたします。

サービスのβ版をリリースした後は、下記の 3 点の詳細を最重要 KPI として、サービスの検証を行なっていきます。

- トークン配布ロジック・パラメーターの調整
- マンガ作品へのフィードバック内容の調整
- サービスへの投稿マンガ作品数

また、アライアンスも強化し、プラットフォームと提携ができるパートナー企業の開拓も開始いたします。

サービスとしてのクオリティを担保するためにも、クリティカルな不具合を対策し、円滑にサービスを正式リリースできる準備を完了いたします。

Phase2

Phase2 では、まずサービスをβ版から正式版へと移行し、有料マンガを販売できる機能を追加いたします。それに伴い、有料マンガ作品を購入した読者への配当も開始します。
基本的には、上記のロジック調整、利用促進にフォーカスし、マンガ作品を次のステージへ押し上げるためにコミットをいたします。
海外での展開も視野に入れ、サービス・マンガの多言語化対応もスタートいたします。

また Phase2 では、ある程度の読者、マンガ家が mangachain 上に集まっている前提とし、オフ会・Meetup や、コミュニティを通して、ニーズを深掘っていきながら、機能の追加を検討いたします。

現時点での目玉機能の候補としては、・グッズ・電子書籍を販売できる mangachain store・投稿作品の単行本化を開始・mangachain 上でアシスタントや編集者を探せる mangachain scout(仮) などを予定しており随時、更新をしていきます。

6. チームミッション
メンバー紹介

ミッション

" 新しいマンガの経済圏を創出する "

メンバー

• Yusuke shimura	Business & Marketing
• Yosuke hori	Blockchain engineer
• Tsubasa oshima	Blockchain engineer
• Kotaro umezawa	UX designer
• Kazuumi hori	Blockchain engineer
• Yuki matsumoto	Global relationship

7. チームの運営方針

私たちは、今までの経験から、従来の縦割り組織には非常に疑問を感じています。なぜなら、縦割り組織は一箇所に権力が集中しやすく、時には社内政治といった非常にくだらない構造を 引き起こし、生産的なプロダクト開発・運営に支障をきたす恐れがあるからです。

また前項でも記述した通り、トークンエコノミーサービスを進めていく上では、コミュニティの協力が必要不可欠であると考えているため、信用を得るためにも、クローズドな情報はなるべく避け、オープンにプロジェクトを進めていくことが大切であると考えております。

したがって、私たちのチームでは従来の縦割り組織ではなく、ホラクラシー組織を導入し、下記のルールに乗っ取って、フルフラットでオープンな組織体制を構築いたします。

1. チームの " 役職 " は撤廃し、各々が " 役割 " にしたがって行動します (法人化した場合は、手続き上、代表取締役、役員等に準ずる役職を設定する必要はありますが、あくまで最終責任者という位置付けで、通常運営の際は役職を押し出すことはありません)

2. チーム内では、全てのメンバーが全ての情報にアクセスすることを可能とします (給与情報などももちろん含みます)

3. プロジェクトの進捗状況は github を用いて、公開いたします

4. チームの方向性およびプロダクトの大幅な変更がある際は、トークンを所有する人の多数決をもって承認とする

国内では、ダイヤモンドメディアや、キャスター、ISAO など、すでにホラクラシー組織を取り入れて、成功している素晴らしい事例があります。ホラクラシー組織を定着させることは、決して簡単なことではないと思いますが、私たちもチームにホラクラシー組織を根付かせるためにこのルールに乗っ取って、運営を進めていきます。